
ロシア語教育におけるレアリアの研究

堤 正典／小林 潔

本研究は、ロシア語教育の内容をレアリア（言語使用についての背景知識）の点から検討している。

2022年度は検討すべき項目の洗い出しを行うことに着手した。また、表現・語彙および関係する文法項目について若干の検討を行った。他のヨーロッパの言語と共通する部分も多いが、文法における性の区別（男性・女性・中性）はその代表的なものと言える。名詞の文法上の性が性をも

たない事物を表す語のイメージに関わる場合があるからである。

また、2023年度は既存の教材の分析に着手した。

日本で出版されている教科書において、それらにおけるロシア語レアリアに特徴的な語や表現の分析を行っている。特に、ロシア文化に特徴的な語や表現を各教科書においてピックアップしている。それらはロシア語教科書に頻繁に取り上げら

れており、それはロシア語学習者にとって、ロシアやロシア語を知る手掛かりとなる。

日本で出版されているロシア語教科書は、日本語話者を主たる学習者として想定しており、日本の生活や文化を取り上げている場合もある。日本人学習者はそれらを用いて、ロシア語で日本について述べることができる。そこで、ロシア文化に特徴的な語や表現とともに、ロシア語を用いて日本について述べる際に必要になる語や表現も分析している。

コロナ・パンデミックや戦争といったことを、ロシア語使用地域やその近隣地域の国情・歴史・民族などの観点からどのようにロシア語学習者に

解説すべきか、といったような、時事的な話題についても検討したいと考えている。ロシア語は、ロシアとウクライナとの戦争をふまえて論じざるを得ないのである。

その観点から、小林は、2022年ドイツ書籍協会平和賞受賞者であるウクライナ作家ジャダンをとりあげ、ウクライナ側からみたロシア語への態度を考察した（2024年刊行予定）。ジャダンの見解は否定的なものであるが、今後のロシア語のあり方を考える際に無視するわけにはいかないものである。

2024年度はこのテーマにおける最終年度となる。上記の内容をまとめ、最終的な成果としたい。

